

平成26年度「全国学力・学習状況調査」狛江市の結果

「全国学力・学習状況調査」が平成26年4月22日（火）に実施され、その結果が文部科学省より各小・中学校へ送付されるとともに、教育委員会へも報告されました。

「全国学力・学習状況調査」は平成19～21年度の3年間悉皆で調査されましたが、平成22年度から抽出調査に切り替えられました。（平成23年度は東日本大震災の影響で中止）しかし、抽出調査に変更されたことにより、「各都道府県の状況についてはおおむね把握できるが、詳細な状況把握及び分析等には生かしくなくなっている」という課題から、平成25年度から悉皆調査として実施されています。

市内の小・中学校の結果の分析についてまとめましたので、御報告いたします。

調査の概要

- 調査実施日** 平成26年4月22日（火）
調査の目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
調査対象 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒
調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査（※）	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校（児童質問紙は、3時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

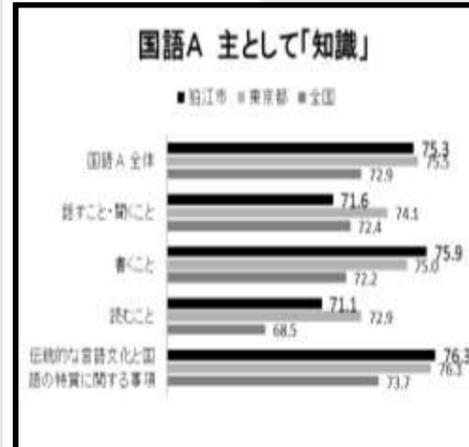
1時限目（45分）	2時限目（45分）	3時限目（45分）	
国語A（20分）、算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	児童質問紙（20分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目（50分）	2時限目（50分）	3時限目（50分）	4時限目（50分）	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	生徒質問紙（20分程度）

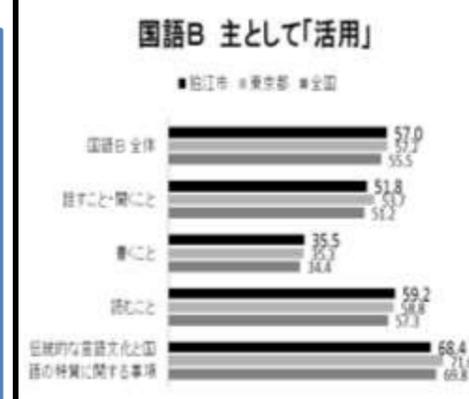
受検者数 【小学校】第6学年 496人 【中学校】第3学年 402人

小 学 校



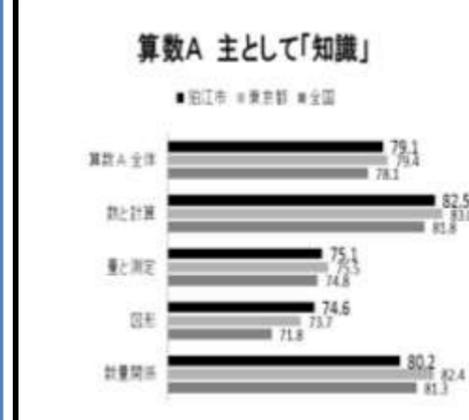
◇「書くこと」では都の平均を上回っており、「文の意味のつながりを捉える問題」では都の平均を3ポイント以上上回りました。

◆「話すこと・聞くこと」の領域で課題が見られ、「話し合いの観点に基づいて情報に関係付ける問題」は、国・都の平均を下回りました。



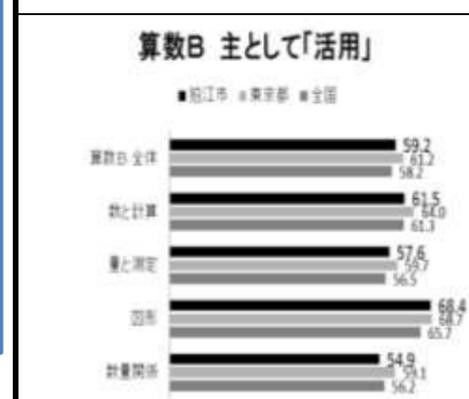
◇「読むこと」では国・都の平均を上回っており、内容に関係付けて読む問題は、都の平均を4ポイント以上上回りました。

◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、「二つの詩を比べて読み表現の工夫を捉える問題」は、国・都の平均を下回りました。



◇「図形」は都・国の平均を上回り、「立体図形について理解しているかみる問題」では、都を3ポイント国を10ポイント以上上回りました。

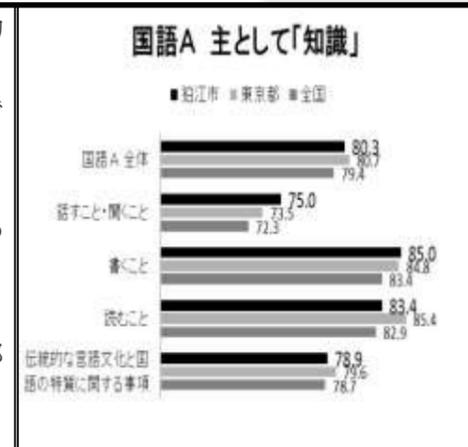
◆「数量関係」では、国・都の平均を下回っており、「計算の順序についてのきまり」や「二つの数量の関係を記号を用いて式に表す問題」に課題が見られました。



◇「量と測定」で、「条件を基に答えを選んだり記述したりする問題」では、国・都の平均を上回りました。

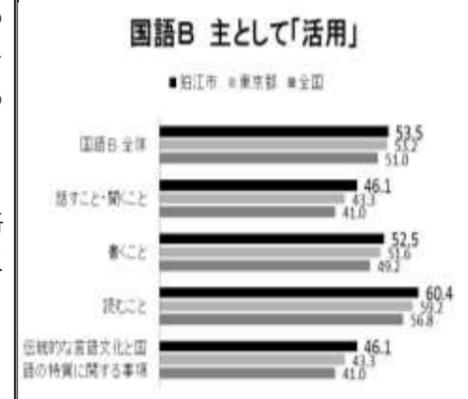
◆どの領域でも都の平均を下回りましたが、「数量関係」は、すべての問題で都の平均を下回りました。今後重点的に改善を図ってまいります。

中 学 校



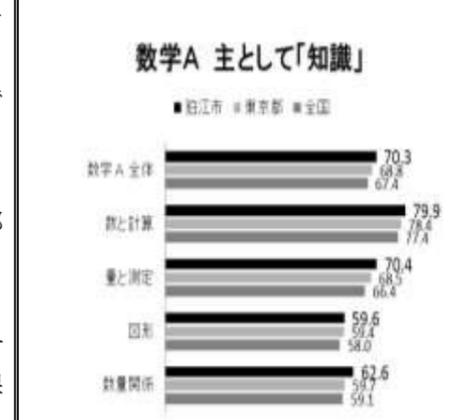
◇「話すこと・聞くこと」では、「二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する問題」で国の平均を10ポイント都の平均を7ポイント以上上回りました。

◆「読むこと」では「登場人物の言動の意味を考える問題」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字の読み書きに課題が見られました。



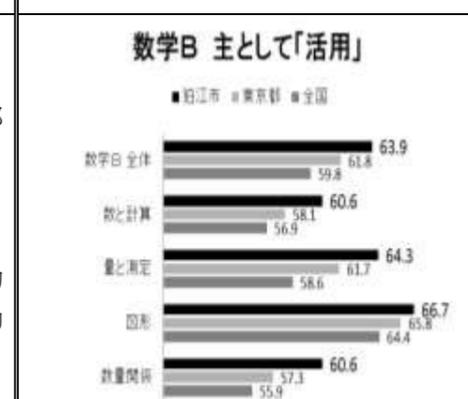
◇「書くこと」では、国・都の平均正答率を上回り、生徒質問紙の回答状況からも、自分の考えを書くことについての意欲が見られています。

◆「表現の技法について選ぶ問題」と「複数の資料から必要な情報を読み取る問題」で、国・都の平均正答率を下回り課題が見られました。



◇全ての領域において、国・都の平均正答率を上回っており、全体として概ね満足できる結果となりました。

◆関数の領域では、8問中5問都の平均正答率を下回り、特に「反比例についてグラフと表を関連付ける問題」と「一次関数の変化の割合の問題」に課題が見られました。



◇全ての領域において、国・都の平均正答率を上回っており、全体として概ね満足できる結果となりました。

◆関数の領域で「グラフの特徴を事象に即して解釈し選ぶ問題」では、他の問題に比べ、平均正答率が国・都を下回り課題が見られました。